

歯科口腔外科

(スタッフ)

歯科医師 : 近藤 理江
 歯科衛生士 : 渡邊 弘美
 : 藏本 典子

歯科医師は大分大学医学部附属病院歯科口腔外科から交代派遣され、歯科医師1名が嘱託医として勤務しています。

歯科衛生士は渡邊と藏本との2名が勤務しています。

(診療実績)

外来診療は、月～金の週5日体制で行いました。

2020年1月から12月の外来延患者数は2,263人で、外来新患患者数は776人でした。外来新患患者の疾患別内訳を表1に示しています。入院患者延数は35人でした。

当院のがん等に係わる全身麻酔による手術又は放射線治療若しくは化学療法を実施する患者に対し新規で専門的口腔管理を施行した患者数は151人で、紹介科別内訳は表2に示しています。

(今後の方向性)

(1)新型コロナウイルス感染症の影響により、前年と比較しますと外来新患患者数、入院患者数ともに減少しています。今後も、基礎疾患があり出血傾向や易感染状態にある患者の抜歯や埋伏歯、嚢胞、口腔粘膜疾患、良性腫瘍などの口腔外科疾患の治療に対して、地域歯科医院からの受け入れを強化していきたいと考えています。

(2)当院は地域がん診療連携拠点病院（高度型）として多くのがん患者が治療を受けます。悪性腫瘍に対する手術、放射線治療、化学療法、骨髄移植を受ける患者の他、心臓血管外科手術や、脳卒中に対する手術、人工関節置換術を受ける患者の口腔管理を行っています。前年度と比較しますと増加しており、今後も各診療科との連携を強化し治療が円滑に進むよう口腔機能の維持、口腔環境の改善への介入を継続します。

(3)病気や障害など様々な理由で通常の歯科治療が困難な患者に対して全身麻酔下での歯科治療を行っていききたいと考えています。

歯科治療終了後は、地域の歯科医院に逆紹介し、連携を図ります。

(4)歯科医師は学会・講習会に参加することで、口腔外科における知識・スキルの向上に努めます。また、歯科衛生士も学会、地域ケア会議等へ参加し、全身疾患を持つ患者の口腔環境の改善のため、知識の向上に努めていきます。

(文責：近藤理江)

表1 新患外来患者の疾患別内訳 (単位：人)

	2019年	2020年
有病者の歯科疾患	490	434
粘膜疾患	197	103
埋伏歯	82	77
良性腫瘍	40	26
顎関節疾患	34	31
外傷	31	21
炎症	23	12
嚢胞	21	23
神経性疾患	9	6
唾液腺疾患	7	1
骨吸収抑制薬関連顎骨壊死	5	12
口腔癌	5	2
唇顎口蓋裂	4	8
先天異常・発育異常	3	3
その他	17	17
計	968	776

表2 周術期口腔機能管理の診療科別内訳 (単位：人)

	2019年	2020年
血液内科	36	40
循環器内科+心臓血管外科	28	41
耳鼻咽喉科	24	29
呼吸器腫瘍内科	12	11
呼吸器内科	6	7
乳腺外科	6	5
消化器外科	4	5
婦人科	4	2
消化器内科	2	1
泌尿器科	0	7
呼吸器外科	0	3
計	122	151